



壁画制作に取り組んだ子どもや大学生、教員ら＝浜松市天竜区のJR浦川駅で（シン・サクマ計画提供）

無人駅に古里の宝

天竜区・浦川 児童生徒ら壁画

浜松市天竜区佐久間町のJR飯田線・浦川駅に、地元の子どもたちと静岡文化芸術大（中区）の学生が共同で制作した一枚の壁画が設置された。地元の自然や伝統文化が生き生きと描かれ、無人駅の利用者を迎えている。

壁画には伝統芸能の浦川歌舞伎や花火、川の風景とアユ、飯田線の車両などを明るい色の絵の具で描いた。二枚とも幅四尺以上あり、三日に待合室の壁に取り付けられた。

中心となって制作したのは、浦川小や佐久間中の児童生徒八人と、静岡文化芸大の学生十一人。四、五月に地域を歩くなどしてアイデアを練り、大学での四日間の作業で完成させた。浦川小二年の山崎陽己君は「植物が好きだから、学校のキンモクセイを描いた。大きな絵が完成して、頑張ったんだなとうれしくなった」と声を弾ませた。

人口減少が進む浦川の良

さを発見し、都市部と交流を進めようと、有志団体が企画。代表の金田鈴音さん（三）は「子どもたちが集

立ってからも、壁画を見て浦川が良いところだったと思いつく、ふるさとと関わり続けてくれたら」と願う。

同団体では「佐久間アクトプロジェクト」として、今後も佐久間町内で取り組みを続ける予定だ。

（野瀬井寛）